

広島大学病院

Hiroshima University Hospital News

No. 36
2015. 4

ニュース



- 病院長就任のご挨拶
- かすみ散策スポット「吉益東洞碑」
- 広島大学病院ファミリーハウスがオープン
- 気になる病院の言葉「NK細胞」
- ニュースアップ
 - カーブ新人が体力測定
 - 放射線治療センター公開シンポジウム開催
 - 市民セミナー「新しい聴こえの医療」を開催
 - 台中栄民総医院と国際交流協定
- お知らせ
 - 歩行者専用通路(屋根付き)が完成
 - 歯科リーフレットコーナー設置
- 催しのご案内

ご自由にお持ち帰りください。

陽光に映える入院棟(2015年3月26日撮影)

病院長就任の ご挨拶



病院長 平川 勝洋

平成27年4月1日付けで広島大学病院長を拝命いたしました。

広島大学病院では、「全人的医療の実践」、「優れた医療人の育成」、「新しい医療の探求」を理念として掲げ、高度な医療を患者さんに提供することを使命としています。また、広島の医療をより良くするために、県内の医療機関と緊密かつ良好な連携を築くように努めています。

来院される患者さんからのご意見には、いつも新たな気づきをいただきます。これまでの病院長と同様に、「患者さんのために何ができるか」と常に考え、すみやかに実行する姿勢を大切にしていきたいと思います。

また、所属している職員各々にとって、働きやすい、かつ働き甲斐のある病院になることが、理念にある「全人的医療の実践」に繋がるものと考えます。

年頭の茶山一彰前院長の挨拶にもありましたように、広島大学は昨年、文部科学省から「スーパーグローバル大学創成支援」(トップ型)に採択されました。大学の構成員として大きなパートを占める大学病院も、積極的にスーパーグローバル大学としてふさわしい研究活動を行っていく必要があります。特に、臨床研究をサポートする体制の強化にも努めたいと思います。

広島大学霞キャンパスには、医・歯・薬・保健学のエキスパートに加え、原爆放射線医科学研究所があります。これらの機関と緊密に連携しながら、大学病院としての使命を果たしていきたいと考えます。

患者さんひとりひとりにとって体にも心にも優しい医療を目指して、職員一同努力してまいります。より良い病院となるために、患者さんの目線からみた病院へのご助言をいただければ幸いです。

【ひらかわ・かつひろ】 昭和28年生まれ。昭和52年、広島大学医学部医学科卒業。平成17年、広島大学大学院医歯薬学総合研究科(現在の医歯薬保健学研究院)教授に就任。広島大学病院副院長、広島大学副理事、広島大学副学長などを務めた。平成27年4月から広島大学理事・副学長(医療担当)。専門は耳鼻咽喉科学。広島市出身。

「ファミリーハウス」が完成しました

がんなどで入院治療を受ける子どもと家族が利用できます

がんなどで長期の入院治療を受ける子どもと家族のための滞在施設「広島大学病院ファミリーハウス」が3月末、広島市南区出汐1丁目に完成しました。利用開始は5月上旬の予定です。

広島大学病院は、平成25年2月に中四国地方で唯一の小児がん拠点病院に指定されました。小児がんや難病の子どもたちを年間50人以上受け入れています。

ファミリーハウスは鉄筋コンクリート造5階建て延べ床面積550㎡。入院棟から徒歩で3分ほどの位置にあります。昨年9月に着工し総工費約2億円をかけて建設しました。クッション性のある床材を使用し、小さな子どもの安全に配慮しているのも特徴です。



白とブラウンを基調にした外観

1階は家族同士の交流スペースとして利用できる多目的ルームを配置。2～5階には洋室9室と和室2



アットホームな雰囲気の多目的ルーム



ソファやベッド、ミニキッチンを備えた洋室

室があります。洋室は18㎡のワンルーム形式。ミニキッチンとバス・トイレ、ベッドとソファ、机、テレビを完備。洗濯コーナーも各階に設け、長期滞在にも対応できます。

使用料は1人1泊当たり1,500円。日帰り利用は1人当たり500円です。

ファミリーハウス建設基金へのご協力をお願いします

広島大学ではファミリーハウス建設基金を設立し、皆さまのご協力をお願いしております。

個人は1口は2,000円、法人は1口10,000円。

お問い合わせは病院総務グループ ☎082-257-5007。

E-mail : byo-soumu@office.hiroshima-u.ac.jp

かすみ散策スポット

吉益東洞碑

P3駐車場近くにある基礎第2研究棟前の植え込みの中にあります。広島出身の医師、吉益東洞は江戸時代中期に活躍し、日本漢方医学の礎を築きました。すべての病気は一つの毒から生じ、その毒をより強い毒をもって制するという「万病一毒説」を唱えたことで知られています。碑は昭和49年、東洞ゆかりの広島市中区の寺に建立されましたが、平成7年現在地に移設されました。



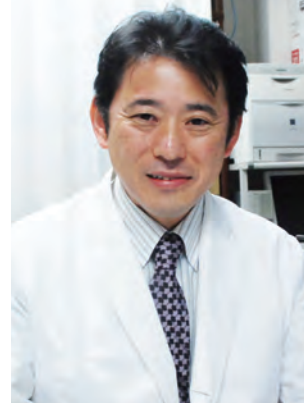


気になる

病院の言葉⑩

「NK細胞」

テレビや雑誌にもしばしば登場するNK(ナチュラルキラー)細胞。病原体やがん細胞などの異物から体を守る免疫細胞の一つです。NK細胞の働きや医療への応用の可能性について、消化器・移植外科の大段秀樹教授に聞きました。



消化器・移植外科 大段秀樹教授

■どんな働きをしているのですか。

NK細胞は「自然免疫」の中心を担っているリンパ球の一種です。もともと体の中に備わっていて、異物を見つけると速やかに攻撃するので「生まれつきの殺し屋」という名前がついています。健康な人でも毎日数千から数万のがん細胞ができていますが、NK細胞が機能していればすぐに退治してくれるので、がん化にまで至らない—という説が有力です。私たちににとってNK細胞は非常に大事なものです。

■いま治療の現場ではどのように応用を。

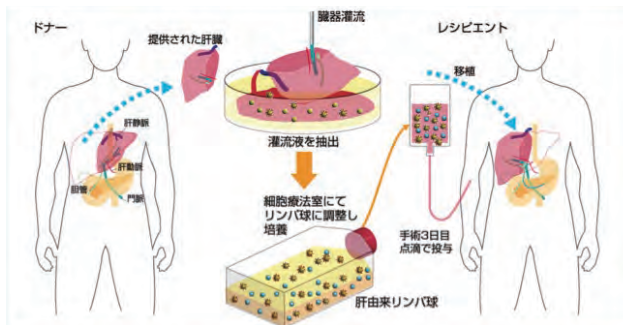
肝臓移植を受けた肝がん患者さんにNK細胞を使ってがんの再発を予防するNK細胞療法の臨床試験を行っています。肝臓移植では提供された肝臓をまず灌流液で洗い流すのですが、その灌流液に多量のNK細胞が含まれています。これを抽出して培養した後、移植手術3日後に点滴投与すると、再発の可能性が高いグループでも5年間の無再発生存率が2割から8割に上がりました。手術などでほとんどのがんを退治した後の予防としては相性がいいと思います。

■NK細胞の活性の強さには個人差があると聞きました。

最近、NK細胞は、2種類の遺伝子の制御によって、活性の程度が異なることが明らかになってきました。がんになっても再発しやすい人と再発しにくい人がいるのは、NK細胞の活性の個人差も原因の一つと見られています。C型肝炎ウイルスに感染した場合も自然に治る人と慢性化する人に分かれるのですが、これもNK細胞の活性の違いによるものと考えられています。

■もともと活性が弱いタイプの人はどうすれば。

血液を遺伝子検索すれば、NK細胞の活性の強さが段階的に分かるようになりました。活性が比較的弱いタイプと分かったら、禁酒禁煙やバランスの良い食事をとるなど、なるべくリスクの少ない生活を心掛けることで、がんの再発予防に役立てることが出来ます。将来は、特に再発しやすい人に対し抗がん剤を予防投与するといった治療も可能になるかもしれません。



■笑うとNK細胞の活性が上がるというのは本当ですか。

NK細胞自体がホルモンレセプターを持っているので、よく笑うことで善玉ペプチドが出てくるとNK細胞の活性が上がることが生物学的に証明されています。遺伝学的に機能が弱いと思われる人は、努めて明るい生活をされるようお勧めします。

カープ新人が体力測定

広島東洋カープ新人選手が1月17日、広島大学病院を訪れ、本格的な体力測定に挑みました。昨年に続いて2回目となる体力測定には、ドラフト1位の野間峻祥外野手をはじめ新人9人がそろって参加しました。

測定にはスポーツ医科学センターやリハビリテーション科の機器を利用。医師や理学療法士らの指導を受けながら、反応時間やジャンプ力、持久力などの基礎体力に3次元動作解析を加えた計7項目を測定しました。中には一般人の1.5倍のという並外れた持久力を記録した選手も。

3時間あまりにわたるテストを終えると、選手たちは汗びっしょり。「弱点を知り、トレーニングで補っていきたい」と話していました。



体力測定の説明を聞くカープの新人選手たち



動作解析に挑む野間選手

広島がん高精度放射線治療センター 県民公開シンポジウムが開かれました



講演するアグネス・チャンさん

今年秋に予定されている広島がん高精度放射線治療センター（広島市東区）の運営開始を前に、機能や特徴を紹介する公開シンポジウム「がん医療の新しいかたち」が2月15日、広島市中区の広島国際会議場で開かれました。

高精度放射線治療はメスを入れる必要がないため、体への負担が少なく、通院しながら治療できる特徴があります。広島がん高精度放射線治療センターは高精度のリニアック3台を配備し、広島大学病院など4つの基幹病院が連携して最新の医療を提供します。

シンポジウムでは、日本対がん協会「ほほえみ大使」を務める歌手のアグネス・チャンさんが基調講演し、自らの乳がん体験を基にがん検診の大切さについて、ユーモアを交えながら話しました。この後、高精度放射線治療センターの役割や今後の取り組みについて医師、医学物理士、看護師、行政の立場からパネル討論を行いました。

市民セミナー「新しい聴こえの医療」が開かれました

広島大学病院市民セミナー「新しい聴こえの医療－人工聴覚機器による難聴治療－」が3月14日、広島国際会議場で開かれました。広島大学病院の聴覚・人工聴覚機器センターが開設して4月で1周年を迎えるのを記念して、同センターと中国新聞社が主催しました。

センター長を兼ねる耳鼻咽喉科の平川勝洋教授が聞こえの仕組みについて解説。「補聴器の効果が高度難聴の人が人工内耳の対象になる。正しい知識を共有してほしい」と述べました。続いて石野岳志助教が検査や治療について説明し、「人工内耳を装着した人の90%以上は会話できるようになっている」と治療の実績を紹介しました。

実際に人工内耳を着けている3人の体験発表もあり、約250人の参加者は熱心に聞き入っていました。



人工内耳を装着している人の体験談を聞く参加者

台中榮民総医院(台湾)と 国際交流協定を締結しました

広島大学病院は3月15日、台湾台中市にある台中榮民総医院と国際交流協定(MOU)を締結しました。

この日、台中榮民総医院で行われた調印式には、広島大学から浅原利正学長、茶山一彰病院長らが出席。茶山病院長と台中榮民総医院の許恵恒院長が協定書にサインしました。

今回の協定締結は、昨年12月に本院を訪問された台中榮民総医院の院長からの申し出を受けたもので、ヘルスケアに関する協力を促進するとともに専門的能力を高めるのが目的です。両病院は今後、相互に専門職や研究者、研修医などの交流や訪問を行うことにしています。



国際交流協定に調印した
茶山病院院長と許院長
(台中榮民総医院提供)

病院からのお知らせ

P1駐車場から診療棟まで屋根つき歩道を 通行できるようになりました

霞キャンパスの北西端に昨年2月から供用を開始したP1駐車場と診療棟を結ぶ歩行者専用通路(屋根付き)が完成しました。

今回整備された部分は、P1駐車場から研究棟Aに沿った延長120m。歩道幅は2.3mで、アルミ製屋根とLED照明が取り付けられています。既に整備済みの歩道と合わせて、傘をささずに診療棟まで移動できるようになりました。

研究棟Aの植え込み外側にあった従来の歩道は自転車道とし、歩行者と自転車を分離することでいっそうの安全確保を図っています。



完成した屋根付きの歩行者専用通路



歯科リーフレットのコーナーを設けました

広島大学病院歯科が編集した各種リーフレットのコーナーを、イベントホール(診療棟3階)に設置しました。リーフレットは「口腔粘膜疾患と口腔がん」「障害者歯科って何?」「ドライマウス」「咀嚼・嚥下外来ができました」「女性と歯周病」「あんしん歯科って何するところ?」「舌の力」の7種類。イラストなどを使って分かりやすく解説しています。自由にお持ち帰りください。

催しのご案内

(2015年4月~6月)

がん治療を支える 患者サロン

場所：臨床管理棟3階 3F4会議室
(会場が変わりました)

遺伝性乳がん・卵巣がん症候群について

4月15日(水) 13:30~14:30 講師：乳腺外科医師 恵美 純子

治療中の感染予防について

5月21日(木) 13:30~14:30 講師：感染管理認定看護師 山下 浩司
がん化学療法看護認定看護師 清本 美由紀

放射線治療の最前線

6月18日(木) 13:30~14:30 講師：放射線治療科医師 木村 智樹

患者・家族が同じ目線で

がん患者 おしゃべり会

4月28日(火) 13:30~14:30

5月26日(火) 13:30~14:30

6月23日(火) 13:30~14:30

場所：入院棟5階 相談室

いずれも問い合わせは：
がん相談支援センター ☎082-257-1525